

## 第 40 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2022 年 8 月 4 日（木）午後 0 時 50 分から午後 1 時 50 分まで

場所：愛知県庁本庁舎 2 階 講堂

### 1 挨拶

#### 大村知事：

本日は、第 40 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を急遽開催する運びとなったところ、お忙しい中参加していただき感謝申し上げます。

現下も新型コロナ感染症は大変厳しい状況である。

愛知県では、6 月 21 日から第 7 波が襲来したということを申し上げ、データ整理などもさせていただいた上で、県民の皆様には、注意喚起し、感染防止対策の徹底をお願いをしてきたが、昨日 8 月 3 日に新規感染者は 1 万 7,777 人と、過去最多を更新している。

第 6 波のピークが 2 月半ばで 6,600 人であったので、それから一気に 1 万を超え、1 万 2,000、3,000、4,000、5,000、6,000 と増えていき、そして 1 万 7,000 人を超え、大変厳しい状況である。

今日の県と名古屋市の新規感染者数は、お昼過ぎのこのくらいの時間には大体の速報値の報告があるが、昨日よりは両方とも 1,000 人ずつ減っているということである。

ちょうど 1 週間前の木曜日が 1 万 5,600 人であったので、今週がピークではないかと思うが、今後のことは予測できない。

新規感染者数が 1 万 6,000 人から 1 万 7,000 人で高止まりした場合、医療のひっ迫具合がますます深刻になるので、何としてもコロナの感染を押さえ込み、日常を取り戻したいと考える。よろしく願います。

愛知県は、昨日発表した、本日この対策本部会議で意見をいただき、了解をいただいた上で、明日 8 月 5 日から 21 日まで、B A. 5 対策強化宣言を発出したいと考えている。これは愛知、岐阜、三重の 3 県で足並みをそろえて行うものである。

これまでの政策をパッケージでまとめて、改めて感染防止対策の再徹底をお願いするという内容である。よろしく願いを申し上げたい。

事態は大変緊迫している。本日参加をしていただいた医療関係、経済関係、行政関係の皆様方にあつては、何卒、感染防止対策の再徹底の周知、また、ワクチンの 3 回目接種がまだの方は、接種をお願いするとともに 4 回目接種の対象の

方はできるだけ早く、ワクチン接種を受けていただくことをお願い申し上げます。

## 2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

### 大村知事：

まず資料1については、B A. 5対策強化宣言のメッセージである。8月3日の新規感染者が1万7,777人となり、病床使用率も8月になって60%を超え、大分厳しい状況が続いているため、愛知、岐阜、三重の3県が足並みをそろえて、B A. 5対策強化宣言を行うこととした。

昨日、政府の内閣官房のコロナ対策室との協議も行った。宣言を発出して、8月5日から21日まで、お盆休みを挟み、しっかり対策を強化し、乗り切っていければと考える。

そして、2枚目の別紙であるが、基本的にはこれまでの感染防止対策をパッケージにしたもので、これまで厳重警戒での感染防止対策のお願いは、基本的には働きかけ、要請であった。

今回は、特措法第24条第9項に基づいて、県民の皆様への協力要請を行う。

内容としては、①基本的な感染対策の再徹底、②ワクチンの接種促進などに加え、特に強く申し上げるのは③高齢者、基礎疾患を有する者、同居家族には、混雑した場所や感染リスクが高い場所への外出を自粛すること、そして、④救急外来及び救急車の利用は、真に必要な場合に限ることである。

2週間前の7月20日の水曜日に私の名前で、県民市民の皆様へ、夜間と休日の外来受診は控えて欲しい、病院が大変だということで、発熱した場合は日中昼間にかかりつけの医師又はホームページに掲載している2,123の診療・検査医療機関へ電話で相談して欲しいと、お願いしている。

熱が出たからといってすぐに直接病院へ行かないでいただきたい。今回改めて、救急外来、救急車の利用は、真に必要な場合に限ることとし、医療機関へ配慮をしていただきたいということを強く申し上げさせていただきます。

以上の内容で県民の皆様、事業者の皆様に協力要請をするため、B A. 5対策強化宣言を作らせていただいた。

資料2は具体的な中身であり、赤字のところ新たに付け加わったところである。

参考資料1は各数値の過去7日間の平均数を計上しており、入院患者も新規感染者数もレッドゾーンである。ただ入院患者のうち重症の方はまだ少ないということである。基本的には軽症の方が多いが状況は大変厳しい。

現在、入院病床はレベル2のオレンジゾーンで1,723床お願いしているが、

これを引き上げるかどうかは、病院協会、医師会の皆様と近々相談をしたいと考えている。

確保病床を増やすとその分一般病床を削らなくてはならず、そのバランスをどう考えるか、また相談をさせていただきたい。

参考資料2はオミクロンの変異株の割合である。B A. 5が87.6%まで増えた。6月の下旬は11%だったのが7月に入って34%、7月半ばで50%、7月下旬には67.5%。そして直近の一週間には87.6%である。90%は超えるのは必定であろう。

併せて、さらに警戒を要するB A. 2.75、いわゆるケンタウロス株がまだ0.5%だが3件見つかっている。これが今後どうなるか、すぐにウナギ登りに増えるということはないとは思いますが警戒すべきである。

やはり今回感染が拡大した一番大きな要因はB A. 5にほぼ置き換わったということではないかと考える。

引き続き県と名古屋市の衛生研究所でゲノム解析は行い、特筆すべきことや注意することがあれば、しっかりアナウンスをしていく。

参考資料5はホテル入所についてである。東横イン中部国際空港Iで150室と、ホテルルートイン名古屋栄で363室の2か所増やし、合計で11の宿泊療養施設、2,737室を確保している。引き続きしっかり体制を整えていく。

参考資料7は、お盆期間中に抗原定性検査無料検査所を名古屋駅、金山駅、豊橋駅、県営名古屋空港に設置することについてである。なお中部国際空港はPCR検査場があり、それをお盆休みも使えるということである。

参考資料8は、昨日発表したのが、国から抗原定性検査キットが63万7,000キット配布されたので、まず県内の診療所、病院に250、そして、新型コロナウイルス感染症患者を診ていただいている91の病院へ1,000キットを本日配分する。なお、明日以降、さらに国から77万キット来るので、それも同様に配布していこうと考えている。

また、県の保健所に在庫としてこれまでの7万キットと、今回の3万8,000キットの合計10万と少しの在庫がある。そのため、検査キットが足りない医療機関があれば個別に融通するので、各医師会、病院には、相談をしていただければと思う。

いずれにしても大変厳しい状況であるので、この状況を何とか乗り切るために明日から21日までB A. 5対策強化宣言を発出する。今年はトヨタカレンダーの休みは8月13日から21日ということであるので、ちょうどそれに合わせたところで対策を強化し、感染拡大を押さえ込んでいきたい。何卒よろしく願います。

(有識者・関係団体、政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

病院の状況について報告をする。現在、FRESH-AICHIのデータと私どもの病院の状況を見ると、約8割から8割5分の病床使用状況である。入退院で入替えがあるため、満床に近い運用状況である。病院によっては、院内感染の対応で一般病床を閉鎖して、新型コロナウイルス感染症患者用の病棟に切り換えて対応されているところもある。医療従事者が感染することや濃厚接触もあるため、現場では厳しい対応を迫られている。

一方、患者の病状という点では過去と大きく異なっており、以前のように次々と呼吸不全に陥り、人工呼吸管理、ウイルスの毒性で死亡する状況が今は全くない。医療従事者が患者の診療において感じる緊迫感が過去とは異なっており、新型コロナウイルス患者の診療は、現場では粛々と通常の医療の範囲で対応している。

FRESH-AICHIを見ると、中等症や重症も登録されているが、ウイルスの毒性によるものではなく、基礎疾患や誤嚥性肺炎、またコロナ禍でなくても発生する心筋梗塞、脳出血、急性腹症なども検査した結果、コロナ陽性となり、隔離を求められるという状況である。

繰り返しになるが、新型コロナウイルス診療自体は、ワクチン接種や治療薬の普及によって、通常医療として十分対応できる状況になってきた。

御存知のように、トランプ大統領は感染されて呼吸不全となり、一時は大変厳しい状況だったと聞いている。一方、バイデン大統領は最近感染したが、通常執務をこなしながら経過してきている。年齢から見てもバイデン大統領は非常にリスクが高いが、このような状況になっており、新型コロナウイルス感染症の診療自体が通常の医療範囲で十分対応できるところまで来ていることは以前との大きな違いである。

現在の医療現場の課題は、感染者というだけで隔離病床が必要であり、入院を必要としている患者の数に制限がかかることである。一方、さらに隔離病床を確保しようとするとう一般診療を止めなければならず、現在の新型コロナウイルス感染症患者よりも医療をはるかに必要とする疾患、急性疾患の診療が止まることになり、医療者としては逆転していると感じる。

全国知事会でも提案されたと聞いているが、患者数の全数把握から定点把握への転換や、病院や医療施設ではある程度感染リスクはあるが、通常の感染対策、いわゆるスタンダードプリコーションを少し強くした形で隔離病床診療体制か

ら一般診療体制への移行が求められる時期に来ていると考えている。

その前提として、繰り返しになるが、新型コロナウイルス感染症の診療自体が通常医療として十分対応可能な状況になっていることや、ワクチン接種による社会免疫ができており、今後も維持されることが必要である。現在の状況であればゼロ感染は難しいと思うが、医療機関においては、ある程度は感染のリスクを許容したうえで、一般診療に切り換えていかないと、医療提供体制が組めない。

引き続き、ワクチン接種と適切な感染対策に留意していただきながら、医療機関が安心して全ての医療を提供できる体制を維持していけるよう、関係各所、県民の皆様には協力、努力をしていただきたい。

#### **大村知事：**

医療現場は本当に大変な状況になっているが、引き続きよろしく願います。医療従事者の方のワクチン4回目接種が許可され、今しっかりと進めている。併せて、自衛隊、警察、消防も社会機能維持のためにワクチン4回目接種を行っていただくことになった。

#### **医療専門部会 長谷川部会長：**

医療従事者のワクチン4回目接種の許可をいただき、非常にありがたいと思っている。当院でアンケートをとったところ、1,200~1,300人の医療従事者のうち、約900名が希望された。

#### **愛知県医師会 柵木会長：**

7月にあった3連休が今回の感染爆発の初めだったと思うが、県下の休日診療所で普段の約3倍の発熱患者が来院して大変な状況であり、翌週には新規感染者が1万人を超えていると思っていたが、第6波のピークを超える新規感染者となり、以後、発熱外来を設けている医療機関では予約が取れないほどの患者が来院している。

新規感染者数は今でも増え続けている状態であるが、以前のように指数関数的に増えているわけではなく増加の程度は落ち着いてきているように感じるが、要因としては感染者の急増に医療機関の診療能力が追いついていないこともあるのではないかと考えている。無料でPCR検査を受けられる登録検査所での陽性率を計算すると、医療機関で陽性となる人と同じぐらいの数が出ていたが、実態はかなり多くの潜在患者が隠れているのではないと思う。

また、高齢者施設でのクラスターが多いと感じるが、これだけ感染が拡大する

と、患者の入院前にスクリーニング検査をして水際で止めることは可能なのかという疑問がある。例えば、出産をした人が翌日に発熱し、そこで新型コロナウイルスの感染が判明したという事例も多くある。他科のことを直接は聞いていないが、このようなことが医療機関において起こっていると思われる。そういう意味では、新型コロナウイルス感染症患者を引き受ける病院以外でも、引き受けることを避けることができない状態にあるだろうと思う。

ただ高齢者施設においても、以前のアルファ株やデルタ株と異なり酸素を必要としている人は圧倒的に少なく、脱水や食欲不振で治療を必要とする人や、持病が悪化してそのための医療が必要という方がいるという状況である。第5波の時には、酸素ステーションとも言われた入院待機ステーションの設置や、宿泊療養施設に酸素濃縮器を持ち込んで酸素を提供するというようなことがあったが、今はそのような話はほとんど聞いていない。

明らかにこのオミクロン株になって病気の質が変わってきている。ただそれでも確保病床の入院患者は昨日で約1,100名、病床利用率63%であるため、今のペースの持続や拡大となれば、第6波のピークの時の1,300名を超えることは覚悟する必要がある。

現在の病床で持ちこたえることができるかどうか、近々、緊急病床確保会議を開き、拡大するかしっかり検討していきたい。

今回、BA.5対策強化地域となった7府県では、必ずしも病床使用率が70%を超えている府県だけではない。日本で70%を超えている県は6県あり、医師会チャンネルを通して現状の救急医療や入院状況を問い合わせ、データとして持っている。

病床使用率が70%を超えても入院制限や緊急手術以外はなるべく手術を避けるという指示を出している県は、沖縄県以外はないと聞いている。今後どのようにしていくか、これらの県の状況も参考にしながら、検討していく。

#### **大村知事：**

緊急病床会議をまた近々にやらせていただく。

なお、都道府県別の人口10万人当たりの感染者数は、昨日時点で愛知県は11番目である。

#### **愛知県病院協会 伊藤会長：**

医療の現場、特に重点医療機関、協力医療機関を含めて、中核となって新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている病院は、大変厳しい状況に陥ってい

る。発熱だけの外来受診というのは現状かなり抑制されているが、それでも、救急を含めた医療のひっ迫を現在引き起こしているということは間違いない。

発熱外来については、今度、抗原検査キットを配っていただけるということであるが、現状として発熱だけの症状の方で検査のみを希望される方はお断りしている状況がある。

それを受け入れてしまうと外来が回らないという状況であり、特に救急循環器疾患等の有症者に対応するだけで手一杯である。

このような状況を勘案すると、今回の抗原検査キットをお配りいただけることは大変ありがたいが、このキットをできるだけ多くの医療機関等にお配りいただき、広く分散して対応していただくということが重要ではないか。

この抗原検査キットがあることによって、発熱外来にまた患者が集中するようなことになると、発熱外来がパンクして機能しなくなってしまうため、このような点も含めて一度検討していただきたい。

また、新型コロナウイルス感染症専用病床の拡大について、新型コロナウイルス感染症への感染や濃厚接触者になったために医療従事者が不足し、病棟が十分機能できないような状況が現在起こっている。

各医療機関は毎日抗原検査を行った上で就業しているような状況が続いており、ぎりぎりの体制で業務を行っているような状況を理解いただきたい。

当然のことながら、後方病院との連携とその強化についても行っており、効率的な病床の運営を目指しているものの大変状況としては厳しいということである。

現状の病床数で持ちこたえるために、何らかの運用の工夫というものが必要ではないかというふうに思っている。これも含めて、今後の新型コロナウイルス感染症患者専用病床の確保に関して相談をさせていただければと思う。

#### **大村知事：**

病床確保等についてはまた近々に打ち合わせさせていただければと思っている。

#### **名古屋商工会議所 内田専務理事：**

日頃の医療体制の維持に尽力をいただいている医療従事者、行政機関の皆様には感謝を申し上げる。新規感染者数、それから病床使用率ともに、とても高い水準にあり大変厳しい状況であると認識をしている。3回目、4回目のワクチン接種の加速をお願いするとともに、今回今一度県民に注意喚起することは大変重要だと思っている。

これまで厳しい経営環境に置かれていた飲食・宿泊・観光などの事業者にとっては、ここのところ感染者が落ち着いていたところから客足も戻り始め、これからの夏休みお盆休みに期待していた事業者も多かったと思う。

今、現状を伺ってみると、百貨店では7月の下旬から客足が落ちており、8月に入ると猛暑の影響もあって、高年齢層の客足が鈍化しているということである。また、ホテルなどでも、第7波の本格化により、宿泊や会食の予約キャンセルが散発的に生じているが、以前のように、全てがキャンセルには至らず、人数の変更をするお客様が多く、新規予約も止まるには至っていないとのことである。

多くの県民は十分危機感を持って、細心の注意を払いながら、余暇を楽しむ工夫をしているのではと思っているが、これからの夏休み、お盆休みで人の移動は増えることから、今まで以上の感染防止対策の上、社会経済活動を回していくというスタンスでいかなければならないと思っている。

中小の飲食店では、客足が減少している上に、パートやアルバイトが感染し、営業に必要な人員の手配に苦労している状況や、食材の高騰などで収益を圧迫し、厳しい経営状況が続いているとの声もあった。

コロナ禍に加え、エネルギー価格、原材料費の高騰で収益を圧迫するものの、価格に転嫁できていない事業所は大変多く、大変厳しい状況が続いている。

何卒、きめ細かな中小企業支援をお願いしたい。

#### **大村知事：**

引き続き状況を注視しながら、中小企業対策を含めてしっかりやっていきたい。

#### **一般社団法人 中部経済連合会 栗原常務理事：**

まず、日頃から最前線で尽力をいただいている、医療関係者、保健所、行政の皆様には改めて心から感謝申し上げます。

今回のB A. 5対策強化宣言は、新規感染者数が過去最多を記録し、病床利用率も60%を超えるなど、厳しい状況が続く中、妥当な判断だと評価している。

私どもも、マスクの着用、3密の回避はもとより、感染状況により多少の強弱あるもののテレワーク、時差出勤の奨励、会食時の留意事項の遵守、オンラインも併用した会議の実施など継続実施をしている。

ワクチン接種については、推奨しているものの、特に接種率等は把握していないが、日頃の会話の中で、3回目接種の副反応がどうだったなどもよく耳にしているので、ある程度進んでいるものと推察するが、現在の状況を踏まえ、引き続きワクチン接種の推奨を継続していく。



中経連は今月少し規模の大きいローテーションを実施したことから、引き継ぎ等があり若干出勤者が増えているが、現在、テレワーク率は約3割で推移している。

また、民間等とは異なり、一斉の夏季休暇を設けていないが、来週再来週のお盆時期の出勤率は2割程度を見込んでいる。お盆期間中は家族や親戚が集まる機会も増え、また旅行に出かけるケースもあるが、現状の感染状況に鑑み、感染対策に十分留意して過ごすよう呼びかけている。

会員に対してもメールマガジン等を通して、B A. 5対策強化宣言の内容を周知するとともに、感染防止対策の再徹底を広く呼びかけていく。新型コロナウイルス感染症以外にもエネルギー、原材料の高騰や極端な円安の継続など、取り巻く環境には厳しいものがあるが、経済界としても、新型コロナウイルス感染拡大防止と社会経済活動の両立を目指して努力していく。

**大村知事：**

引き続きよろしく願います。

**愛知県経営者協会 岩原専務理事：**

まず新型コロナウイルス感染症対応を行っていただいている医療従事者の皆様に感謝を申し上げます。

多くの企業においては今週もしくは来週から長期連休に入るので、勤務のみならず、休暇中の基本行動の徹底ということを呼びかけていきたい。ワクチンについても、3回目、4回目の接種を呼びかけていきたい。

最後に先月末、厚生労働省から経済団体に対して要請があった。社員の感染者、あるいは濃厚接触者が、一定の期間を経て職場に復帰する場合、これまで陰性証明書を求めるようにやってきたが、医療機関、あるいは保健所の負担をできるだけ少なくするというので、必ずしも陰性証明書を求めないということ、各事業者にも協力を要請していきたい。

**大村知事：**

引き続きよろしく願います。

**日本労働組合総連合会愛知県連合会 可知会長：**

まず新型コロナウイルス感染症対応を行っていただいている医療従事者の皆様、そして大村知事をはじめとする県の職員の皆様に、敬意と感謝を申し上げます。

労働団体の連合愛知としては下部組織からの声の代弁として4回目のワクチン接種の関係で要望させていただきたい。

ワクチン4回目接種の医療従事者の方々への拡大がされたということで先ほど話があったが、豊橋市にある豊鉄バスでは、感染者や濃厚接触者の増加によってバスの通常運行が厳しくなっており、平日ダイヤを土日ダイヤに変更している。

豊鉄バス労組が加盟している総連から、このような状況は他の公共交通機関でも拡大していくことが想定されるという声が届いており、交通事業者も、重要なエッセンシャルワーカーの一つなので、医療従事者と同様に、優先接種の対象としていただくよう国への働きかけをお願いしたい。

なかなか国の対応が遅いということで県も苦勞しているのは重々承知しているが、そういった声もあるのでよろしくをお願いしたい。

連合愛知としても新型コロナウイルス感染症関連の労働相談対応と合わせながら本日、県の方から示されるB A. 5対策強化宣言を周知徹底していくように下部組織などに周知徹底をしていきたい。

#### **大村知事：**

会員の方にも対策強化宣言の周知をお願いしたい。

ワクチン接種については、やはり3回目の若い人がなかなか進んでいないので、周知等をよろしくをお願いしたい。

また、エッセンシャルワーカーへのさらなる対象拡大は引き続き行っていく。

加えて、秋以降、オミクロン株対応ワクチンを5回目接種として打つという話になるだろうと思う。

そのため、前回の接種から5か月間空けるとなると、早い方で11月、12月、1月において、5回目の接種としてオミクロン株対応のワクチンの接種が始まることが考えられるので、私どもも準備を進めていくため、引き続きよろしくをお願いしたい。

#### **愛知県市長会 相津事務局長：**

県民や事業者、行政が、以前に比べそれぞれ新型コロナウイルス感染症との共存方法を主体的に判断し行動できるようになったのではないかと思った矢先に第7波が襲来した。

今回のB A. 5対策強化宣言がこうした県民の皆様の主体的な判断を生かしつつ、効果的なものになるとありがたい。

一方で、国においては新型コロナウイルス感染症に係る感染症法上の分類見直しの議論を慎重かつ迅速に行っていくといったような方針であろうかと思うが、行政の現場、特に保健福祉などの分野では現場がひっ迫してきているので、社会経済活動との両立を考えていく中でこうした行政現場の正常化も念頭に置いた議論をお願いしたいと考えている。

**大村知事：**

引き続きよろしく願います。

**愛知県町村会 野村事務局長：**

町村会としても、住民や事業者による感染予防対策というのが、社会経済活動の維持と感染症の拡大抑制の両立を図るためには極めて重要であると考えるところであることから、今回のBA.5対策強化宣言に基づく感染防止対策の徹底について住民の方々に周知を努めていきたい。

ワクチン接種に関しては、4回目の接種対象者に対しては順次接種券を発送しており、非常に順調に予約が入っているという町もある。

引き続き3回目のワクチン接種を終えていない住民の方への広報等も含めて、ワクチン接種の促進に取り組んでいきたいというところであり、接種が円滑に進むよう、県の方には今後も各種支援をお願いしたい。

また、今回県においてお盆期間中に臨時の抗原検査キットによる無料検査所が設置されるということである。

設置期間が限られているが、安心安全な社会経済活動が維持されるためにも、この無料検査所の利用について広くPRしていただきたいと思っている。

**大村知事：**

引き続きよろしく願います。

**名古屋市保健所 医監：**

昨日も名古屋市の新規感染者数は6,383名、過去最多を記録している。

感染者が非常に増えているので、医療や保健サービスの需要と供給、このバランスが大きく崩れている。特に深刻なのが医療サービスであり、入院医療も外来医療も需要に供給が追いついていないという状況かと思う。

昨日の市内の入院患者数は630名で、前日から63名増えた。確保病床の病床使用率は現在74%である。スタッフが濃厚接触者になっているため人手不足で稼働できないベッドもあるので、事実上ほぼ満床の状況であり、入院調整は非常にぎりぎりの状態でやっている。

中には入院が必要な状態でもなかなか受け入れ病院が探せず、そのために入院ができないという状況が生じている。

そのため名古屋市では、今月1日から夜間に容態が急変して入院が必要だが病床が確保できない患者に対して、民間の医療サービス会社が自宅や施設へ往診する仕組みを作った。8月1日と2日には1人ずつが利用されている。

また、診療所の外来診療も大変厳しいと伺っている。予約が殺到して全員診察できず、やむを得ずお断りされているような姿がよく報道されている。

先日、市の医師会の副会長に伺ったところ、市内に14ある休日急病診療所の一つでは、本来診療時刻は午後5時までであるが、患者数が非常に多いため、診療が終わったのが深夜の12時になったということ伺った。

本当に改めて医療関係者の皆様の尽力に心よりお礼を申し上げたいとともに、発熱外来を担っている診療・検査医療機関の負担を軽くする施策、これが求められていると痛感しているところである。

限りある医療資源を県民全体で大切に使い、救える命を確実に医療につなげる体制が必要かと思う。

そのためには、県民や事業者の皆様に感染防止対策の徹底や、ワクチン接種の推進、救急車の適正利用を改めてお願いする必要があると思うので、今回のBA.5対策強化宣言の効果に強く期待する。

#### 大村知事：

引き続きよろしくお願いを申し上げます。

#### 豊橋市 感染症対策室長：

豊橋市も他の自治体と同じように感染者が増えており、今日、1日当たりの感染者が過去最大の774名になるかと思う。

感染者がたくさん出ている中、10歳以下の感染者が非常に多かった時期があり、幼稚園や保育園の集団感染も発生したところであるが、熱中症対策やマスクの着用ができないという限られた感染対策の中で、幼稚園・保育園の先生たちはとても苦労されている。お話を伺っていると、とても窮していると感じる。

これだけ感染者が出てくると、ある程度幼稚園或いは保育園の中で感染者が出ることは想定内とし、とにかく集団感染を起こさないように対策していくという形で、保護者の方の理解を得ながら、保育の継続をしていただくようお願いしているところである。

少し下の世代が収まってきたが、高齢者の感染も多くなってきた。豊橋市でも施設における集団感染、或いは高齢者を診ている病院の中で、感染が起こっている現状である。

入院患者は今 139 名であるが、8 割くらいは高齢者がいる病院で診ていただいている状況であり、新型コロナウイルス感染症病床を持っている医療機関は満床の状態である。

長谷川先生からもお話があったように、新型コロナウイルス感染症の治療というよりは基礎疾患や持病をお持ちの方を各病院でお願いしているという状況である。

こういった状況もあるので、新型コロナウイルス感染症の医療を外来医療も含めて、一般診療の方へ移行していくというのが現実的な対応として必要である。また、全数把握についても、もう少し考えていかなければいけないと考える。

外来診療がひっ迫しており、どうしても診てあげられない患者がいると聞いている。診療はやはり検査目的ではなく、症状がある人を受け入れていただき、医療にアクセスをしていただくということ。また、繰り返し申し上げるが、診療・検査医療機関だけでなく一般の内科の先生たちを中心にアクセスできるような体制が今後必要である。

ワクチンの接種については、3 回目のワクチンについて若年層の接種率が上がらないため、豊橋市としてはこれから 8 月に向けての個別接種の対象を、40 代以下の方々にしていこうと考えている。高齢者の方を守るという意味で若い人にも接種していただくように勧奨していきたいというふうに考えている。

#### **大村知事：**

また引き続きよろしく願います。

#### **岡崎市保健所長：**

名古屋市と豊橋市から話があったが、岡崎市も類似の状況である。

やはり岡崎市も過去最高に匹敵するような、感染者数が出ている。

若年層の感染者数の増加と、それに伴う家族内感染が大きな問題となっている。家族内感染によって自宅待機を余儀なくされ、それによって地域の社会生活の維持がなかなか難しくなる傾向があることは否定できない。

4 回目のワクチン接種についての話題も出たが、4 回目もさることながら、やはり 3 回目の接種率を上げることが重要である。若い世代の接種とともに、5 歳から 11 歳の接種率を上げていかなければ、家族内感染を防ぐことは難しいのではないかと危惧している。

岡崎市のワクチンの予約の状況は、少なくとも第 7 波の問題が出てきてから、積極的に予約を取られる方の割合が増えてきたという、明るい兆しもある。これからも頑張って接種率を上げ、若年層を中心とした集団発生を抑えていきたいと考えている。

また、クラスターの問題が非常に大きくなっている。高齢者施設と学校の集団感染ではなく、今度は放課後児童施設のクラスターが残念ながら増えてきている。クラスター対策は当然やっていかなければならない。

高齢者施設の場合は、療養支援ということで、基本的には施設の方で何とか患者をできるだけコントロールしていただくことを進めていかなければならない。

県には、DMATを派遣していただいているが、希望が多く、タイミングよく支援をしたいがなかなか県の方の都合で難しいというような話も聞く。お願いしている立場であるため、無理なことはお願いできないとは思いますが、そういった支援チームの迅速な派遣について、県の方でまた配慮していただければありがたい。

#### 大村知事：

また引き続きよろしく願います。

#### 一宮市保健所長：

昨年度の4月1日に中核市になってから、今年の8月2日の発表分までで累積の陽性者は36,991人となった。38万人いる市民のうちの約9.7%が感染したということであり、県全体と比較するとやや低いのではないかとと思われる。

曜日によって報道発表の資料にばらつきがあるため、週単位の新規感染者数で話させていただいているが、6月23日の週が222名であり、これ以上は下がらないのではないかと考えている。6月30日の週が406名、7月7日の週が892名、7月14日の週が1,631名、7月21日の週が3,187名、7月28日の週が4,069名となっており倍々ゲームのような形で感染者が増えている。

保健所でも検査を少ししているが、高齢者又は持病のある方に対して実施している。7月7日の週に11名、7月14日の週に5名検査しいずれも0名であったなど、これまでは新規感染者0名が続いていたが、7月21日の週では12名実施し2名陽性、7月28日の週では12名実施し3名陽性となり陽性率が上昇している。

市内の入院状況について、市内の病院に51名入院しており、市外の病院に3名入院させていただいている。前回報告時では、7月10日時点で入院が23名であったため、1か月で約2.3倍に増えている。

宿泊療養施設入所者数は、比較的症状が軽い方が多い関係か、16名というところである。

ワクチンについては、高齢者への接種は90%以上進んでいる。医療従事者へのワクチン接種については、市内に住所があり1回目及び2回目のワクチン接

種記録に医療従事者として登録されている方に対しては、4回目接種券を配り終えている。近いうちに医療従事者への4回目接種を開始できる見通しだ。

**大村知事：**

引き続きよろしく願います。

**豊田市保健所長：**

豊田市の感染状況は、他市と同様に日々増加の傾向にあり、先週月曜日には、直近1週間の人口10万人あたりで1,000人を超えた。今週8月1日には1日の届出件数が1,114人であり初めて1,000件を上回った。直近1週間の人口10万人あたり1,141人であった。これは、第6波のピークの約2.6倍である。

年代別で見ると相変わらず20歳未満が多いが、その親世代に当たる20歳～40歳代からも多く発生している。先週1週間では、10歳代では17%と最多で、10歳未満及び20歳～40歳代では約14%～16%であった。

そして、割合では少ないが、高齢者の実人数は多く存在し、それに伴い入院患者数も増えており、昨日夕方時点での入院者数は78人である。

また、病院や高齢者施設、こども園、放課後児童クラブでもクラスターが発生しており、各年代にわたり状況は深刻になっている。各施設の従事者が感染又は濃厚接触者となり働けなくなることにより、業務がひっ迫しているとの相談が多々寄せられている。

市内の医療の状況について、既に発熱外来はパンク状態となっており、このままでは救急患者の受け入れにも支障が出かねないと伺っている。

県が推奨している、医療体制を守るための平日、日中でのかかりつけ医の受診等についても、市民啓発に努め、地元の豊田加茂医師会にも全面的に協力をしていただき進めているが、感染者の増加に追いついていない状況である。

1週間で住民の1%以上が感染している中、今までと同様の仕組みで対応するのはもう無理であり、無駄もあると感じている。本当に医療が破綻してしまう前に、現実に即した対応ができるよう県から御提案いただけるようお願いしたい。

ワクチン接種については、若者の3回目についても、高齢者の4回目についてもなかなか接種率が伸びてこない状況ではあるが、先週土曜日に実施した市の集団接種が非常に好評で、予約いっぱいで行うことができた。今後も予約なしの接種等の人気のある手法を取り入れ、接種率アップに努めていく。

**大村知事：**

引き続きよろしく願います。

医療の状況がひっ迫、そして専用病床が満床に近づいている状況ではあるが、発熱だけの方は電話等での診療で受けていただき、本来必要な救急外来を確保していくことが必要である。また、病床使用率も 84%となっており、更なる病床を確保するか緊急病床確保会議において御意見を承り、現状把握したうえで適切に対応していく。また、ワクチン接種についても、着実に進めてまいりたい。

それでは、いただいた御意見等を踏まえ、B A. 5 対策強化宣言をこの会議の後正式に発出させていただき、明日 8 月 5 日から 8 月 21 日まで、お盆休みを挟んだ 17 日間で収めていきたい。

県内の多くの企業や学校がお休みになる中、基本は人流が減るかと思われるため、そこで感染拡大を抑えていき、オール愛知で新型コロナウイルス感染症の感染収束及び社会経済活動を回していき、日常を取り戻していきたい。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。